

本索引の底本である『梅沢本栄花物語』（国宝）は、近年梅沢家を離れて国の所有となった。特別閲覧の申請並びに翻刻の允許を願ったところ、移管後まだ日の浅い折にも拘わらず、特別の配慮と便宜とを与えられた文化庁の山本信吉課長に対し心から感謝の意を表す。

本索引を作成するに当たって、松村博司博士の数々の高著、中でも『栄花物語全注釈』（全九巻）からは多大の学恩を蒙った。記して謝意を表す。

また、かかる大部な図書の出版を快く引き受けて戴いた武蔵野書院の前田武社長及び終始お世話下さった長尾宏氏にお礼申し上げます。最後に、本書に対する大方の御教導を切にお願い申し上げます。

昭和六十年五月二十日

高知大学人文学部国語史研究会

会員氏名

- 東辻保和 渡辺輝道 菅原範夫 松本光隆 山口真琴（以上教官）
- 秋山充 大久保昌代 岡村邦子 岡村文 越智寿子 神原修一 上村敏子（現小村） 川村幸治 菊地美保 木下晶子 木谷寛 清藤由紀子（現松村） 黒川優子 小池寛 合田敦子 小松博 近藤清美 佐伯芳子（現川村） 鯖戸茂樹 瀬戸久美子
- 高橋喜代美 竹田みつ子 谷川京子 手島順子 土居千里 福田純子 正木宏明 松崎恭子 松吉朝子（現宮本） 宮武志保
- 村上修子 山田雅勇 山本環（以上学生）

目次

序文	……………	小林芳規	一
はしがき	……………		三
本文	……………		七
本文篇凡例	……………		九
卷第一	……………	卷第一三	一六三
卷第二	……………	卷第一四	一七四
卷第三	……………	卷第一五	一八二
卷第四	……………	卷第一六	一九二
卷第五	……………	卷第一七	二〇八
卷第六	……………	卷第一八	二二七
卷第七	……………	卷第一九	二三四
卷第八	……………	卷第二〇	二四三
卷第九	……………	卷第二一	二四七
卷第一〇	……………	卷第二二	二四四
卷第一一	……………	卷第二三	二四七
卷第一二	……………	卷第二四	二五三

一、翻字注について

翻字本文の末尾に注を一括して付けた。この注は底本を翻字するに際して必要と考えられる注を主とし、底本の貼紙、声点、イ本注記、誤字等を記した。被注字句は、翻字本文の当該字句に*を付けて示した。

〔巻第一〕
〔第二丁〕

(七・八) へ上二七1

1 「栄花物語巻第一」
2 「月の宴」

3・4 「世はしまりてのちこのくにのみかと六十余代にな「らせ給にけれとこの次第かきつくすへきにあら「すこちよりての事をそしるすへき世のなかに「宇多^{*}のみかと、申込みとおはしましけりその「みかとのみこたちあまたおはしましけるなかに「一のみこ敦仁^{アノト}の親王とましけるそ位につかせ給け「るこそは醍醐の聖帝とましてよのなかにあめの「しためてきためにひきたてまつるなれくら「ゐにつかせ給て卅三年をたもたせ給けるにおほ「くの女御たちさふらひ給ければおとこみこ十六「人をんなみこあまたおはしましけりそのころの「太政大臣基経のおととときこえけるは宇多のみか「との御時にうせ給にけり中納言良長^{ナカノヨシナガ}とときこえ「けるは太政大臣冬嗣^{*}の御太郎にそおはしけるのちに「は贈太政大臣とそきこえけるかの御三郎にそ「おはしけるその基経のおととうせ給てのちの御諡「昭宣公ときこえけりその基経のおととおとこ君

17 18 19 20 「四人おはしけり太郎は時平ときこえけり左大臣まで
(第二丁) (九・一〇) へ上二七13

1 「なり給て卅九にてそうせ給にける二郎は仲平」ときこえける左大臣までなり給て七十一にて「うせ給にけり三郎兼平ときこえける三位までそ「おはしける四郎忠平のおととそ太政大臣までなり「給ておほくのとしころすくさせ給けるその基「経のおととの御女の女御の御はらに醍醐の宮達あま「たおはしましける十一のみこ寛明の親王と申ける「みかとのみこさせ給て十六年おはしまして

9 のちにおり「させ給ておはしましける(を)そ朱雀院のみかと、
10 は申「けるそのつきおなしはらからおなし女御の御はらの「十四のみこ成明親王と申けるさしつゝきてみかと「にみさせ給にけり天慶九年四月十三日にそる「させ給ける朱雀院はみこたちおはしまさゝりけへる(り)「たゝ王女(御)ときこえける御はらにえもいはすうつ「くしきをんなみこ一とこ所おはしましけるは「女御も御子みつにてうせ給にしかはみかとわれひ」ところ心くるしきものにやしなひたてまつり(給)「けるいかてきさきにすゑたてまつらんとおほ「しけれと例なき事にてくちをしくてそ「すくさせ給ける昌子内親王と(そ)きこえさせけるかく
(第三丁) (一一・一二) へ上二八11

1 「ていまのうへの御こゝろはへあらまほしくあるへき「かきりおはしましけり醍醐の聖帝よにめてたく「おはしましけるに又このみかと堯^{ケウ}の子の堯ならむ「やうにおほかたの御こゝろはへのをうしうけたかく「かしこうおはしますものから御さえもかきりな「し和歌のかたにもいみしうしませ給へりよろ「つになさけあり物のほえおはしましそらの女「御みやすところまいるあつまり給へるを時あるも「時なきも御心さしのほとこよなけれといさゝかはち「かましけにいとをしけにてもてなしなともせさせ「給はずなめになさけありてめてたうおほし「めしわたしたてなたらかにきてさせ給へればこの「女御みやすところたちの御なかみいとめやすく「ひんなき事きこえずくせくしからすなとし「て御子むまれたまへるはさるかたにおもくしく「もてなさせ給さらぬはさ(へ)う御物忌なにてつ「れくにおほさるゝ日などはおまへにめしいてゝ「こすく六うたせへんをつかせいしなとりをせ